

## 「犬の腰痛」

どうぶつ心とカラダの治療院

獣医師 北野 昭子



ペット名…タロー  
性別…♂ (去勢済)  
BW…十二kg  
種類…ビーグル  
生年月日…二〇〇二年二月五日

五日

## 【病歴・症状】

二〇一一年一月二十五日  
胸椎部ヘルニア手術。しかしその後も起立・歩行不可、排尿コントロール不可。手術して三カ月が経過したが、起立・歩行できない、手術した部位の毛が生えてこない、とのこと。来院。当クリニックに来院した時の上記以外の症状は以下の通り。

固有位置感覚—  
屈曲引出反射+  
(鈍い、特に左後肢)  
後肢筋肉の削瘦

現在、手術部上方からK1部にかけて、低周波治療とスクワット、サイクリング運動などリハビリテーション継続中。

ヘルニア専用コルセットを購入したが、それを使わず、以前から使っていた腰だけサポートする補助パンツで歩行訓練させていたと

ころ、腰を痛めた。(今回のレポートは、この腰の治療についてです)

## 【症状】

腰、特に右腰に圧痛(押すと振り向いて咬もうとする)

## 【治療】

心身条件反射療法(PCRT)にて治療を行った。PCRTを行う前に、飼い主さんのみで、三角筋を使って筋肉反射テストを行う。

必ず答えがイエスになる質問(飼い主さん自身の名前など)をし、腕が下がらないことを確認する。

次に、ペットに触れてもらい、先ほどと同じ質問をし、必ずイエスと答えてもらう。

今度は、腕が下がることを確認する。なぜならば、ペットに触れることで、飼い主はペットになるためである。つまり先程の質問はペットにとつては、ノーの答えとなるからである。

これをPCRT治療に入る前にしておく、飼い主さんに治療を受け入れやすく、協力してもらえる。

以上のテストを行なつてから、この腰の痛みがどこ

で調整できるのか、飼い主さんに患犬を膝に抱いてもらい、さらに犬の腰が痛い状態をイメージしながら、飼い主さんの下肢長検査を行って調べた。(代理テスト)

整できると判明したので、患犬の腰に圧痛を加えてからすぐに、C2部にアクティベータ器でアジャスタメントを行った。

さらに、経絡でも調整できると判明、その経絡を飼い主さんで調べると、左膀胱経という結果だったので、患犬の左後肢第五指に触れてもらい、飼い主さんに深呼吸してもらいながら、呼吸の最後にアクティベータ器で振動刺激を加えた(計三回)。

治療前の腰の痛みを十とすると、三ぐらいまで痛みが軽減した。

次の週に来院した時には、痛みがなくなっていた。

これ以降、歩行訓練など運動療法をするときは、コルセットの装着を徹底してもらったところ、腰痛の再発は今のところなし。

## 【考察】

今回の症例は、飼い主さんの目から見ても症状がはっきり分かり、PCRTをするのでペットに不愉快な思いをさせることなく、症状が軽減した。言葉を話せないペットにとつてPCRTは、飼い主さんという代理人を通して症状を訴えたり、感情を表現できる方法の一つであると思う。ペットにも人間同様ストレッチがあり、ストレッチから何らかの症状を発していることも少なくない。PCRTを通して少しでもこのようなペットの症状を軽減していきたい。



タロー

上部頸椎のC2で調